

■事例④ 聖アグスティーノのコンプレックス: 二つの美術館と中庭

聖アグスティーノは、非常に大きな複合建築である。教会堂や神父の住まいとなる教会関連のエリアの他、郵便局やチッタ・ノーヴァ地区の拠点、2つの美術館が入っている。

美術館のうち、ひとつは、大聖堂関連の芸術品を収蔵・展示するコムーネの美術館である、もうひとつは、プライベートのパイプオルガンやチェンバロ等の楽器を展示する個人美術館である。

近年にまずコムーネが着手したのが、聖アグスティーノに隣接する公園の整備である。普段は開いていないが、コムーネの美術館の庭から階段でおでくることができる。モニュメンタルな城のような雰囲気と、ピクチャレスクな美しさから、結婚披露宴のロケーションとして使われることがしばしばある。

また、聖アグスティーノ教会脇の中庭が整備された。ぐるりと四方を巡る回廊であったが、老朽化に伴い、回廊の屋根がだいぶ崩れ落ちていた。それらを修復し、本来の姿を再現したのである。

この中庭は、住民のイベントに欠かせない場所である。チッタ・ノーヴァ地区にとっても、教会に通う子供たちにとっても、活動の中心となり、また一般市民にとっても、展示会や見本市等が開かれる場所である。夏場には、講演会やコンサート等が開かれ、屋外でも非常に気持ちのよい空間である。



図 4-8 聖アグスティーノの南側外観と公園(左)、中庭での講演会の様子(右)

■事例⑤ 泉: パラッツォの再生と”発見”された中世フレスコ画

泉は、建築的にみて、非常におもしろい例である。上が穀物倉庫であり、裏側の道からアクセスするようになっており、高低差のある土地に建てられたものであることがわかる。

穀物倉庫だったパラッツォは、近年のプロジェクトにより、展示場、講演会および会議場として使える建物に転換された。

オープン当初は、城壁の際ではあるが、旧市街の中に、近代的な建築が導入されたことで、物議をかもしたものである。コムーネ側としては、鉱山の時代を想起させる「コールテン COR-TEN」という耐候性鋼を用いることを意図していたようである。住民による評価は分かれるようであるが、いずれにしても活発に利用されている建物であることは確かである。



図 4-9 穀物倉庫であったパラッツォを再生 外観(左) 内観(右)

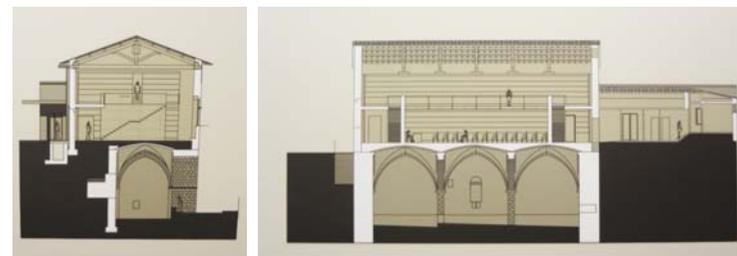


図 4-10 パラッツォ再生のプロジェクト ※CMT Architetti(S.Carloni-P.Mori,-G.Tomasone)

様々な文化的な機会にこのスペース利用されるが、最近の面白かったものに、「イタリア中世における性的表現 Rappresentazioni oscene nel Medioevo italiano」というテーマの会議が開かれたことである。この泉の内壁に描かれているフレスコ画には、豊穡のしるし